

●四季折々ー四季を感じつつ過ごした1年間ー●

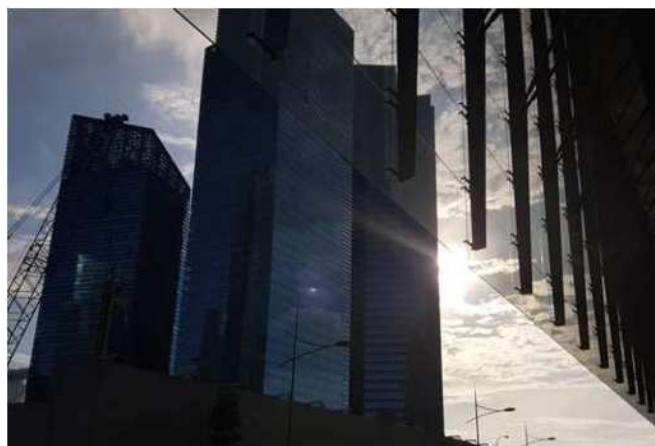
ー 鹿児島県国際交流員 ウォン・イミン（シンガポール出身）

今年も早いもので、もう年末ですね。皆様いかがお過ごしでしょうか。

気温の変化と共に、季節の変わりが来る時期になっています。私は鹿児島に着任してからちょうど一年が過ぎ、春夏秋冬の全てを経験することができました。

私の故郷、シンガポールは典型的な熱帯雨林気候で、気温の年較差がなく明確な季節の違いがない国です。昼は32℃、夜は27℃と、一年中気温は安定して、季節は夏と梅雨しかありません。

そのため、シンガポール人が季節の話をするときは必ず海外旅行の時の話となります。



シンガポールは夏が永遠に続く…

そんな中、私は昨年の10月から国際交流員として鹿児島県に採用され、初めて季節、すなわち春夏秋冬がある地域で過ごす機会を得ることができました。

四季があると、いつも新しい風景が楽しめます。

春の色彩豊かな花畑、夏の綺麗な花火、秋の真っ赤な紅葉、そして冬の冷たい美しさ。

本当に素晴らしいですね。

そのような四季を持つ日本に住んでいる中で、シンガポール出身の私にとっては色々な課題が生じたので、今回はその経験を紹介したいと思います。

秋ー

私が来鹿したのは昨年の10月頃。

その頃は私にとって居心地がよく、慣れ親しんだ夏の陽気で、落ち着いて過ごしていました。しかし、そのあとすぐやってきた秋と共に、気温が急降下しました。

秋の時期、朝晩の気温の変化が大きいほど素晴らしい紅葉を生み出すとも言われますが、私は日々大きく変化する温度への対応に苦しみました。



【秋】霧島市の紅葉

どのような衣服の組み合わせが最適なのか、常に悩んでいて、毎日必死で実験しました。

私がシンガポールにいるとき、毎日の服は常に夏服でした。日本ではそうはいきません。昔よりもお天気アプリと親しくなって、毎日の服装はお天気アプリ上の小さな数字によって決定されることになりました。

冬ー

冬がだんだん忍び寄ってきて、より一層寒さを感じるようになりました。

そこで、私は「太陽」という存在を改めて感じることができました。シンガポールにいる時は、日光は熱くて、汗だらけで、そして不愉快なものでした。

しかし、寒さの厳しい冬に太陽の光を浴びると暖かくて、まるで生き返るような感じました。私にとって冬の太陽は「命の恩人」のような存在となりました。

一方、冬の寒さにも良い点がありました。寒さのおかげで虫やカビがほとんど発生しないのです！高温多湿の気候であるシンガポールでは、虫やカビへの対策が日常となっていたため、冬にその対策をしなくてよいのはとても助かりました。



【冬】出水市に渡来するツル

春ー

厳しい冬を乗り越え、春がやってきました。気温がだんだんと上がり、温かくなっていくにつれて、身体の中から力が戻ってくるような感じがしました。

ただ、私には季節が冬から春に変化していく経験がないため、春の到来への気づきが遅れてしまいました。そのため春を感じる事がほとんどなく、冬からそのまま夏に変わったようにも感じました…

来年の春はこの経験を活かして、冬から春に変わっていく小さな変化を見逃さないように過ごしたいと思います。



【春】鹿児島市の桜（と桜島）

夏ー

蝉や虫の鳴き声と共に夏が訪れました。鹿児島とシンガポールの夏の違いは湿度です。シンガポールの湿度は非常に高く、蒸し蒸しとしています。また鹿児島の真夏の太陽の光は力強く感じて、肌に当たると痛さを感じるほどでした。気温はシンガポールと同じ程度まで上がってきて、とても過ごしやすく、「私の季節が来た！」と感じました。

おわりにー

日本では、このように季節のサイクルが続いており、春夏秋冬は正に「人生における不変のものとは、すなわち変化である」というコンセプトを適切に示しています。永遠に続く季節はありません。「やっと慣れた!」と思ったら、すぐ次の季節がやってきます。



【夏】鹿児島市の花火大会

私が初めて四季の中で過ごす経験は確かに新しい挑戦であり、楽しい経験でもあります。毎年順番に訪ねてくる四人の友人のような感じがありますね。

また次にやってくる季節を楽しみに過ごしていきたいと思います！